

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200246		
法人名	株式会社 大洲産業		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	熊本県八代市昭和田進町字会通152番3		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設しちょうど1年が経過しました。グループホーム経験のあるスタッフが少ないながらも、利用者様がここで心地よく、これまでの生活を維持し続けられるために、どの様な支援が必要か常々考えながら業務にあたっています。母体が米屋ということもあり、食に対してこだわりがあり、食材は国産品を使用し、旬の食材を多く使うよう配慮しています。また、敷地内に家庭菜園、利用者様が作った無農薬野菜が食卓に上り皆様に味わっていただいています。利用者様がお元氣な方が多く、野外の活動を多く取り入れています。ご希望があれば買い物に出かけたり、実家の墓参りに行ったり、利用者様から出た『したい』には何とか対応できるようにスタッフ一同励んでいます。次年度からは地域にも積極的に出向いて行き、地域の方・ご家族を巻き込みながら清流の活動が行えるように励んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑地帯の静寂な環境の中に開設してまだ1年のホームは、入居者の心身の状況把握に焦点を当て寄り添いのケアに取り組んでいる。入居者の思いに応え地域交流室としてカラオケルームが設置されたことは、音楽療法や楽しい日常として生かされており、今後の地域住民との交流促進として期待される。入居者と家族との関係性にも目を向けバス旅行等の実現や、「行きたい、したい」との希望を家族の協力も得ながら支援し、一人ひとりの残存能力を引出し生きがいのある生活であることが編み物や調理・家庭菜園等の継続に表出している。更に職員のケア力が発揮されたことは歩行困難な状態での入居者も畑作りができるまでに改善されたことに表出している。管理者を中心として業務や記録方法等模索しながら基盤作りにも真摯に取り組んでいることが今回の自己評価に表れ、入居者9名を中心に温かいホームが形成されており、次年度に向けた積極的な姿勢は今後の更なる展開に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践者研修などに参加し、グループホームの意義を理解し理念を掲げているが、それを具体的にケアに反映できていない現状。	経営理念及び運営方針に基づき、グループホームとしての理念4項目をケア規範としている。今年度4月に開設したばかりであり、この1年入居者を知る事に重点を置き、業務について管理者と職員とが話し合いながら、初期基盤作りに取り組んでいる。毎月のカンファレンスはタイムリーな話し合いが必要として、日々午後の時間帯に開催することに変更している。1年目を節目といてして介護理念を全員で作上げる意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や会合などには参加しているが、地域の行事にはほとんど参加できていない現状。ご近所の方とは野菜をいただいたり、電球の交換に伺うなどしているが、地域の一員とまではいえない。	開設時地域への啓発の一環として認知症サポート養成講座を開催し、自治会への加入や、総会や清掃活動への参加やどんどや等の行事に出かけながら交流促進に努めている。近隣住民から野菜の持ち届や散歩の中でゲートボール等に誘われる等徐々に地域住民との関係もできつつあり、今後は積極的に地域に向かって交流を行っていきたいとしている。	ホーム便りの創刊を検討され地域への啓発の一環としたり、立地的な面から農閑期等にホームの行事を企画し近隣住民にも参加を呼び掛けることで気軽に訪れることができるホームとして認識されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームにおいて認知症サポーター養成講座を開催したり、運営推進会議で事業所の活動報告をしているが、参加者も少なく地域貢献までには至っていない。地域がどういことを望んでいるのか考えていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、まだ2回しか運営推進会議が開催できておらず、施設の取り組みをお知らせするのみで活発な意見交換とまではいかない。	25年12月から市役所長寿支援課・地域包括、民生委員・区長・消防団長、家族の他、入居者も参加して運営推進会議が開催されている。また、2回の開催ではあるが、地域との交流促進や緊急時対応等の意見交換が行われている。会議議事録は家族全員への郵送により共有化が図られている。	運営推進会議の回数を重ねるごとに委員からの意見や提案が具体的なサービスに繋がっていくと期待され、入居者の皆さんの声を発信する機会としたり、具体的な課題を提示しながらの話し合い及び委員からの意見の進捗状況等を説明されることを検討いただきたい。まずは今回が初めての外部評価受審であり、評価結果をもとにした質疑応答から26年度をスタートされるのも一案である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の長寿支援課の方に運営推進会議に参加して頂き、意見交換できている。また、疑問点があれば積極的に尋ねようとしている。	管理者は書類提出時に情報を発信し、疑問点等行政に相談しながらホーム体制を整えている。また、グループホーム部会の管理者研修に市役所からも参加があり、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム部会の研修会で虐待防止や身体拘束排除についての研修を受け、伝達講習し周知徹底に努めているが、スタッフが十分理解できているかの把握までには至らず現状ではスピーチロック聞かれる場面がある。	外部研修参加者からの復講により周知を図り、徘徊の実例を通してカンファレンスを開催し、入居者個々の外出傾向や帰宅願望を把握し見守りを徹底し、回廊式のオープンな作りと明るい家庭的な環境は入居者の落ち着いた生活に繋がり拘束の実例は無い。管理者は職員の言葉がけ(スピーチロック等)について、次年度全員で話合う機会を作り意識を高める意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したのみで内部研修を定期的に行うまでには至っていない。今後は定期的にホーム内での研修を行い自分たちの行っているケアがどうであるかを振り返る必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、入居されている利用者様にこの制度を必要とされている方はいらっしゃらない為、研修会はしていない。今後学ぶ場を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を用いて利用者様とご家族に説明し、疑問点や不安な点を確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時など話を伺い意見・要望などないか尋ねるように心がけている。	職員は日々入居者に寄り添いながら意見や要望を収集し、ケアサービスに反映させている。行事後には次回に繋ぐ為入居者にどうだったか聞き取りしている。家族の訪問時に管理者が何か意見や要望等が無い聞き取りしており、出された意見等はカンファレンスの中で全員で検討し、業務改善に繋げている。	開設して1年を迎えるホームであるが家族から信頼されていることがアンケートに表出している。家族同士が集える場を検討され、徐々に意見交換や家族の悩みの発信源とされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行い、スタッフからの意見を聴く機会を設けている。また、会議で上がった意見は代表にも伝え職員が働きやすい環境づくりに尽力していただいている。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、入居者も交えながらのカンファレンスや、毎月の定例会議等職員との意見交換が行われている。記録の書き方を見直したり、日中の活動を積極的に行う為に夜間の入浴支援を全員で検討する等管理者のリーダーシップと管理者を職員も盛り立てながら初期基盤づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの為、研修に参加できるチャンスを多く提供して頂き、やりがいを持って仕事ができるよう環境を整えて頂いている。就業環境については今後面接制度を導入し個別に対応していくようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、最低3回以上参加するように促し、自己啓発に努めている。内部研修がなかなか開催できておらず計画を立てて実施していった。また、管理者が初めてという事で外部より指導に来て頂き学ぶ場を設けて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の研修には積極的に参加し、その場で他事業者の方に相談したり、教えて頂いたりと関係づくりに励んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時には話をしっかり聞くようにしている。入居が決まれば、本人様にお会いし更なる詳しい状況把握に努める。また、これまでに関わりのある方にも情報提供依頼し本人の要望把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時、御家族様の困っている事や不安な事をしっかり聞き必要なケアを検討している。また、入居された後も面会時など、施設側に対して要望がないか尋ねたり本人様の状況報告をしたり、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の話を十分に聞きどのサービスを提供する事がベストなのか判断するようにしている。必要な時はほかのサービスの提案もできるようにしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係にならない様と共に過ごし、学び支え合うような関係を目指しているがそこまでには至っておらず、利用者様の能力や個性をスタッフが十分に理解し必要以上に介助することのない様にしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診を代行した時や、状態が変わった時など離れていても、利用者様の今の状況を御家族が把握できるように気を付けて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様や御家族から情報収集し行き付けの店に行ったり、自宅に植木の手入れをしに行ったりとこれまでの関係が途切れない様に支援している。また面会に来られた知人の方からも情報をいただいたり、再来して頂くようお願いしたりしている。	アセスメントで得た情報をもとに、墓参や自宅の庭の手入れに職員と一緒に出かけたり、盆・正月の帰省、友達の訪問時に一緒にドライブに出かける入居者や居室で話し込む方、入院先に家族の見舞いに出かける等家族や友人の支援も得ながら馴染みの人・場所との関係を継続している。カラオケが趣味とする方の要望にカラオケルームを設置したり、編み物等趣味の継続や、ご夫婦やホーム近くからの入居等もあり、趣味や人的な関係も継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	何か行動を起こすときは、利用者様みんなに声をかけ、みんなが参加できるように工夫している。利用者様同士声を掛け合いながら助け合いされることもあれば、仲がこじれ孤立してしまう場面もあり引き続き工夫しみんなが楽しく生活できる様にしていく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設後、まだ退居された方はいらっしゃらないが、そのようなケースがあった時は、関係性を断ち切ることなく、必要ならば情報提供したり、経過を見守り支援したりと、よりよく過ごせるようにお手伝いしたいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方にはどのようにされたかを聞き対応するようにしている。それが難しい方に対しての本人本位の理解が十分でなく、本人本位とはどういう事かを学んでいく必要がある。	アセスメントでの把握の他、自分の意思を持った入居者は代表や職員に直接申し立てられており、「歌いたい」との希望が地域交流室としてカラオケルームの設置となったり、個別外出に繋がっている。また、独語の入居者にはうなずきや表情を意思表示として捉えている。この1年入居者を知る機会として寄り添いのケアに努めているが、更に本人本位を理解したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に情報収集し、本人やご家族、また以前利用されていたサービス提供者などから話を聞きケアに生かしているが、まだまだ情報不足で今後更なる情報収集が必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方をじっくり観察しできる事できない事わかる事わからない事を知ることによりその方に必要な支援ができるようになると思うが、今はできる事まででしまっている事が多い。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在ケアマネが家族や本人からの要望を聞きプランを作成している状況。利用者様の日々のケアの中から問題点を拾い上げアセスメントしケアに繋げるというサイクルが十分でなく、十分な介護計画とはいえない。	毎月のカンファレンスとケアマネジャーによる毎月のモニタリングをもとに短期目標である3ヶ月毎に妥当性等を見極めプランを再作成し、家族への説明と同意を得ている。入居時のケアマネジャーのアセスメントを担当職員へ変更し、更新前にはアセスメントから見直し家族も含めた担当者会議を行うこととしており、更に本人・家族の意向や職員の観察が生かされたプランとなることが期待できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に、行ったことや、その時の様子は書けているが、それを踏まえてのアセスメント、評価が十分でなくプランの見直しの際生かせていない現状。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が病院受診に行けない時は代行したり、実家の墓参りにいきたいと言われたら一緒に行ったりしてなどしているが十分にできているところまでには至っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のなじみの関係を途絶えさせること無く、定期的に会いに行ったり、面会に来ていただいたりしている。また、地域の方には運営推進会議に参加して頂き清流の情報を提供すると共に地域の情報を提供して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に受診している方や、ホームの協力医に変わられた方など様々であるが可能な限り家族の方に病院受診の付き添い依頼し困難な場合はホームで対応している。	入居前からのかかりつけ医の継続や協力医療機関への変更等、入居者・家族の希望に応じている。受診を家族と協力し合い、ホームで対応したり医療機関で待ち合わせる等状況に応じ、医療機関へは日頃の情報を提供しスムーズな受診に繋げ、体調によっては専門医等の紹介を受けている。職員はバイタルチェックや日常の観察で異常の早期発見や早めの受診に努めており、訪問歯科を取り入れ治療や口腔指導を受けられる方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアを通じいつもと様子が違うと感じたときはリーダーに相談し看護師に報告。必要時は病院受診をし対応している。看護師と24時間連絡が取れる体制を確保し緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になったときは病院に付き添い情報提供している。また、定期的に病院へ出向き本人の様子を見に行ったり、ご家族や病院スタッフから状態を聞いたりし、把握いつとめしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約のときに終末期ケアについての説明を行っている。開設後重度化した利用者様がいらっしゃらない為具体的なことが出来ていないが、ご家族に重度化したときや終末期はどの様な対応を考えられているか意向を確認し対応して行く。	重度化や終末期の対応については、開設して日も浅く具体的な事例もないことから今後の話し合いを進めていく意向である。急変時のマニュアルを作成し、対応に関しては職員間の勉強会の必要性を感じており取り組みを強化していきたいとしている。	重度化時にホームで出来る事・出来ない事等職員間で検討し、家族との話し合いを徐々に進めていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や緊急時の対応マニュアルを作成し緊急時に備えているがスタッフの殆どは不安や実践力不足を感じており今後はあらゆる場面を想定し、定期的に訓練をしていく必要がある。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定・地震想定時の訓練はできておらず今後計画的に行っていく。その際地域との連携も図っていけるよう働きかけていく。	開設以来消防署立会いと自主訓練の2回の火災訓練が実施され、総評を受け避難経路の段差が改善されている。防火管理者による自主点検表に沿ったチェック体制を取り防災への意識付けを図ると共に、運営推進会議には消防団長も参加し地域協力の必要性等についての意見交換が行われている。	地域との協力体制については訓練時近隣住民への声かけを行ない、まずは訓練の様子などを確認してもらうことから始められることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し声かけなど注意して対応しているがまだまだ不十分でプライバシーが確保できていない場面が見受けられる。定期的に勉強会を行い自分たちの対応の振り返りをしていく必要あり。	入居者への親しみを込め方も解かりやすい言葉として使用しており、馴れ合いの話しかけにならないように心掛けている。トイレ誘導時はドアを閉めての対応や入浴時の個別での対応等プライバシーに配慮し、個人情報保護や守秘義務の遵守に取り組み書類の保管も鍵付きの棚を使用している。	入居者への話しかけが気になる時は職員同士お互いに注意喚起し合える環境を作っていく事も必要かと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをするとき、まず本人に尋ねどうしたいか、どうして欲しいかを確認するようにしている。本人が気を遣い本音を言えないこともある為表情や口調性格なども考慮しなるべく希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが自分のペースで過ごして頂ける様にその方の過ごし方や心地よさを観察し対応している。利用者様から行きたいところや、したい事など要望があればなるべく希望に答えられるようにしているが、十分ではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでしていた事が、ここでも引き続き出来るように支援している。服装についてはなるべく本人に選んで頂き、髪型やパーマなども本人の意思に沿ったものになるように支援している。また、化粧をする習慣のある方には外出時などお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容は利用者様の食べたい物を参考に献立を工夫している。また利用者様と一緒に作った家庭菜園の野菜を料理に使用することで旬の野菜を食べ、自分達の作ったものをみんなで食べ楽しみにつなげている。料理の出来る方にはお手伝いをお願いし残存能力を発揮できるよう工夫している。	一週間分の献立を作成し入居者と一緒の買い出しや入居者が育て収穫した畑の野菜等も利用しながら調理している。自らキッチンに立たれたりお茶入れや注ぎ分け等入居者も役割を持ち、職員と一緒に会話を楽しみながらの食事を摂っている。干し柿や巻きずし作りの際は入居者の得意分野が発揮され手際良く取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては研修を行いバランスの取れた食事メニューを提供できるように気をつけている。摂取量にバラつきのある方は把握できるように食事量と水分量を記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施。また、毎食歯磨きをする習慣のない方には、お茶でうがいをして頂いたりして口腔内の清潔保持に努めている。自分で磨かれる方でも、磨き残しの多い方や、嚥下機能の低下している方には仕上げ磨きをし対応している。また、嚥下機能の低下した方には、食前の口腔機能訓練を取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように支援している。おむつ使用の方もなるべくトイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はオムツの方もトイレに誘導している。又、失敗が少なく排泄用品使用を中止したり夜間時も就寝前の声かけでパットだけの使用に移行したりと排泄用品も個々に応じ検討し、本人の安心も考慮しながら自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事で食物繊維の多い食品や乳製品を提供したり気をつけている。また水分を多くしたり腹部マッサージをしたり対応しているが、数日出ない場合は浣下剤を使用したり浣腸したりで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望する時間帯や希望日に沿って入浴して頂きたいがお湯が足りなくなりできていない。今後工夫し対応できるようにしていきたい。最近リフトが設置され、これまで浴槽に入ることが困難だった方が入浴できるようになり喜んでいただいている。	入浴前にもバイタルチェックを実施し、毎日や夜間等入居者の希望に沿う事が出来るように努めている。個浴で湯の入れ替えをしながらゆっくりと支援され、皮膚状況によっては石鹸の種類を変更したり、自分で入浴準備をされる方には忘れ物がないようにメモを渡している。又、拒否に対しては時間をおいて再度声かけしながら清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促すために空調に気をつけたり、眠前に身体が温まる様にとホットドリンクを提供したりしている。寝具類も、週に1回はシーツ交換し定期的に布団を干す様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服セット時は個人別に袋を用意し誰が見ても解るように薬剤名と用量・用法を一覧表にし確認している。また、薬局から頂く薬剤情報提供書を活用し作用・副作用をスタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味を生かし、カラオケをしたり、お茶をたてたり塗り絵をしたり支援している。また、本人の残存能力を低下しない様日常生活の中で洗濯物を干したり、取り込んだり食器を洗ってもらったりお手伝いをして頂く事で、役割が出来、張り合いのある生活を送れる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの出かけたいたいの声にはなるべく対応出来るようにしているが、即対応できない時は約束をし、後から必ず約束を守るようにしている。	玄関前や中庭のデッキでの外気浴、畑の手入れをしたり、近くの神社は散歩コースとなっており参拝を兼ねて日常的に出かけている。又、地域行事の祭りやどんどやを見物し、初詣やアジサイ・紅葉・雛人形見学や日帰りバス旅行等を楽しみ、月見や花火見物等夜間にも支援している。新聞のチラシを見て買い物希望が出た時はできる限り希望に沿うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理されている方と事務所で管理している方がいるが、なるべく自分で買い物を楽しめる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や、友人など誰かに連絡を取りたいと希望がある時は、いつでもなじみの声が聞けるようにしている。また、自分で携帯電話を持っている方には、使用方法の説明をしたり、充電されているかの確認をしたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は木目調の落ち着いた空間となっており中庭から見えるもみじの木や畑になる野菜で季節の移り変わりを感じることができる。室内はやわらかい照明で開放感のある作りとなっている。しつらいに関しては不十分で利用者様のこれまでの生活暦などを振り返りさらに居心地のいい環境作りを工夫して行く必要あり。	木の温かみのあるリビングはゆとりある広さでソファやテレビのコーナーもニヶ所設けられ、個々の寛ぐ場所が確保されている。入居者の作品の貼り絵を掲示したり大き目の時計は見当識となり、折り紙や玄関先の雛飾り等季節感に溢れている。中庭の木々や花々・菜園等を臨む明るい窓辺や回廊式の廊下は歩行訓練の場となったり、地域交流室ともなっているカラオケルームの存在もホームの特徴となっている。静かな環境の中ホーム内は温湿度管理で快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にはソファを数多く設置し好きなところでくつろぐ事ができるようにしている。和室で横になりゆっくりされたい片や、ソファで横になりテレビを見られる方、テーブルに腰掛作業をされる方など思い思いに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族に話を聞きなるべく本人が落ち着く空間が作れるよう今まで使っていた家具や小物などを持ち込んでいただいたり、家具の配置を考えたりしている。が、本人の居心地のいい空間までには辿りつけていない現状。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みを依頼し、馴染み家具や電化製品等が持ち込まれ、遺影に供物を上げられたり、魔よけの置物やぬいぐるみを置かれる等一人ひとりが落ち着ける部屋作りに取り組んでいる。又、ベッドの向き等も個々に合わせ、十分な睡眠がとれるように布団やベッドについても検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のあらゆる所に手すりが設置されており、独歩の方が歩きやすいようにしている。バリアフリーとなっており安全な環境を整えている。居室やトイレ・浴室など、利用者様が解りやすい様に表示がなされている。字の理解が難しい方には花などで解りやすくし対応している。		